

◎ 社会福祉学科の3つの方針

《健康福祉学部社会福祉学科がめざす人間像》

社会福祉学を基礎として、より良き福祉社会の実現に向けて、専門的知識技術と実践力、応用力を備えて行動できる人

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って124単位以上を修得し、そのGPA値が原則2.0以上であって、以下の観点別能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与する。

I 【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】（態度・志向性）

- 1) 人間の生活や地域社会に関心を持ち、現代社会が抱える福祉問題に積極的に目をむけることができる。
- 2) 現代社会における福祉課題解決に向けて、自立的、主体的に考え、能動的に学び続けることができる。
- 3) 健全な人間観、社会観を持ち、福祉課題の解決や共生社会づくりに貢献しようとする意欲がある。

II 【専門職業人としての汎用的能力】（技能・表現）

- 1) 社会福祉に関わる専門職業人として、支援関係形成のためのコミュニケーション力を身につけている。
- 2) 福祉課題の発見とその解決に必要な情報を収集し、分析の上、支援計画を策定し、実践・評価を行うことができる。
- 3) 自分の考えを適切に表現し、福祉実践を的確に報告・記録するための文書作成力、プレゼンテーション力、ICT技術を身につけている。

III 【教養ある専門職業人としての基礎力】（知識・理解）

- 1) 社会福祉専門職として、人と社会、地域、福祉に関する基礎的知識を身につけている。
- 2) 社会に貢献していくための広い視野と基礎的教養を身につけ、変動する社会とともにその知識を更新していくことができる。
- 3) 社会福祉に関する学際的知識を総合的に活用し、多様な福祉課題の分析・整理のために論理的に思考し、理解する力を身につけている。

IV 【地域生活を支援し、創造する力】（行動・経験・創造的思考力）

- 1) 地域社会の魅力や課題を発見し、地域社会の発展にむけて創造的提案ができる。
- 2) 人々の生活や地域における具体的な福祉課題に目をむけ、その解決のための活動を通して、地域に貢献できる。
- 3) 人々のもつ多様性を理解すると共に、住民や当事者と連携・協働して課題解決に挑戦し、共生社会を実現するための地域づくりを支援することができる。

教育課程方針（カリキュラム・ポリシー）

- ・社会学、法学、心理学、医学などの隣接諸学科を応用した社会福祉学を中核に、対人援助に関する実践的な知識と技術を習得するための科目を配置する。
- ・社会福祉にかかわる就労に向けて要求される専門的な資格（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、高校福祉科教員免許など）に関する科目を配置する。
- ・社会福祉の実践現場で適用し、応用できる実践的能力を習得するため社会福祉実践にかかわる演習科目と実習科目を配置する。
- ・人や地域社会で生じる課題に対する意識を高め、理論的な思考やコミュニケーション能力を養うための少人数単位のゼミナール形式の演習科目を配置する。

入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）

社会福祉学科では、将来、社会福祉施設や医療機関などで活躍する専門職や福祉の人間力を備えて社会の幅広い分野で活躍できる人材の育成を目的とし、次のような能力、意欲、適性をもった学生を受け入れることを基本方針とする。

- ① 自分を成長させ、人の役に立ちたいという意欲のある人
- ② 人や地域社会に興味を持っている人
- ③ 世の中の出来事に関心を持っている人
- ④ 社会福祉の仕組みやあり方を学習するために必要となる基礎学力がある人

以上のような基本方針に基づき、本学科では社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、教員などを養成するための専門科目群を準備している。多様な専門性に開かれている本学科への入学を希望する人は、高等学校におけるさまざまな学習を積極的に取り組んでおくことを望む。教科の中では特に、心情豊かに伝えあうコミュニケーション力を養う「国語」、現代の社会について主体的に考え、人間としての在り方や生き方について学ぶ「公民」、思考力を伸ばし、日常生活に必要な知識と技術を習得させる「家庭（福祉領域）」の内容に興味を持って学習していることを期待する。また、保健体育、芸術や課外活動などにも積極的に取り組み、協調性や自主性を培おうとする姿勢も大切である。